

日系人の私にとっての日本

愛知県立大学文学部日本文化学科研究生
矢馳春美シンチア

日本への留学

私は昨年4月に日本に来た。これが初めての外国であるが、この初めての外国が日本であるということは、ブラジル人でありながら日本人の子孫である私にとっては、非常に大きい特権のようなものであった。

私が来日したのは、愛知県の県費留学生として1年間研究生の身分で勉強するためである。私は既にブラジルで、ブラジルへの日本人移民の背景理由、という研究テーマを選んでいて、日系人である以上、このテーマの選択はいわば当然でもある。というのも、私はいつも、「なぜ日本人はブラジルへ渡ったのだろうか」、「なぜブラジルを選んだのか」と自問自答していたからである。それゆえ私は、日本史を学び、当時の状況について考えを深める必要があった。

こうした問いに対する回答には多くの要因が影響しており、紙幅の都合上、調査研究の全てをここに披露するのは適当ではない。ただ一般的に言えば、当時のブラジルと日本の状況を考えると、さしあたり、ブラジルと日本の間の移民条約締結に資する2つの基本的な要因を指摘できる。第一はブラジルの奴隷解放であり、このためブラジルは深刻な労働力不足に悩んでいた。そして第二に日本の近代化であり、当時の明治日本は大きな変容を遂げつつあった。日

本のこの変容には、暴動や危機といった社会的混乱をもたらす土地の没収が含まれていた。確かに、こうした国内の混乱を和らげる一つの選択肢として、一部の民衆を海外へ移住させることで問題を最小限に食い止めるということがあった。



京都の金閣寺

調査研究の結果、私をもっとも驚いたのは、日本人の移民者たち自らが移住先としてブラジルを選択していたわけではないという事実である。「選択」という用語は2つかそれ以上の選択肢の最良のものを、自分の意思で選び取るということだ。しかし他方で、当時の日本人には選択肢はなかつ

た。移民者たちが置かれていた厳しい状況を知っていた日本政府は、ブラジルは樂園だと夢のような宣伝文句で移住を奨励した。私は、ブラジルに着いた日本人移民者たちが、自らが後にした祖国と同じぐらい「新天地」の過酷な現実を目の当たりにした時のショックに思いを馳せる。これに加えて、人種差別とブラジル人との意志疎通の困難さに加え、ある時期には日本語での意志疎通さえ禁止されたことの苦難に耐えなければならなかった。



ブラジルでの曾祖母と祖父（愛知県の出身）

2008年は「ブラジル日本移民100周年」であったが、多くの人がこの年を「日本ブラジル交流年」と呼ぶことを好む。日本人とその子孫たちは、かつての苦難の時代にもかかわらず、このご飯と豆料理（フェイジャオン）、そしてカーニバルとサッカーの国にうまく適用したのであり、私は記念すべきことがらは数多くあると思う。その上でなお私は、祭り以上に、過ぎ去った苦難を忘れないために過去に思いを馳せるための1年であったことを願っている。

私にとってこの研究は、日本移民史そのものの理解以上に、ブラジルと日本の現状を理解するものであり、以下に述べる日本

に対する私の感想に確かに影響を与えている。



ブラジル時代の曾祖父（北海道の出身）

日本人のイメージ

日本に来る前に、日系人であり文学部日本語学科を卒業した私は、日本文化の何を知っているのかと、日本と日系との文化的共通点について考えた。

大学の日本語学科では日本語、日本文学、そして日本文化を学んだ。しかし、日本文化の授業では習慣としての文化よりも日本史に重きが置かれていた。それでも日系3世としての私には、わずかながら日本文化の影響がまだ残っていると思う。これは祖父母から私に伝えられた日本文化である。だから私の感想は、一般旅行者のそれとは違うだろう。

ブラジルの日系社会では、日系人のイメージと日本人のそれは融合している。確かに、ブラジルに住んでいる日本人と日本の日本人は共通点を多々持っていると思うが、日系2世、3世、それ以下となると、類似点はあるのだろうか。またブラジルの日本人は日本の日本人とは違った歴史的経緯を経てきた。したがって、違っている点が必

ずある。日系人にとっては、日本人はまじめで、礼儀正しく、親切で、他人を尊重する。私は来日して日本人を観察する中で、私も抱いていたこのイメージが少しだけ変わった。それはなぜなのか。



石川県のお祭

もちろん人によって違うが、一般的に日本人はまじめである。このイメージは間違っていないと思う。例えば、日系人としての立場から見れば、日本人は授業をほとんど欠席しない。私は子供の時に学校を休むことはめったになかった。風邪をひいても学校へ行った。日系人の友達も同じである。これは私が大学時代までずっと継続したことである。学生の間では日系の学生は、欠席した学生に授業内容を教えてくれるものだと思われていた。知らない学生でも欠席した授業について聞きに来ていた。授業内容についての質問に限らず、日系人の学生は他の学生から信頼されていた。日本の大学で私は日本人の学生とも留学生とも一緒になったが、日本人の学生は一般に、病気

と仕事以外で授業を休まないのに対して、留学生は疲れているからか、旅行や私的なことからか、授業を欠席していた。

日本人は礼儀正しく親切である。このイメージも、1点を除き間違っていなかった。日本人に何かを聞くと、親切に答えてくれる。しかし、知らない人が困っていても、気にしない日本人は多いように思う。具体的には、ある日、私の友達が地下鉄の駅で老人がエスカレーターから転倒するのを見かけた。その老人は頭に怪我をし血が出ていた。そこを通る人は多かったが、誰も手助けしようとはしない。人々は見ただけで、そのまま歩き続けていた。なぜ誰も手助けしようとししないのか。また地下鉄の中でたくさん荷物を持っている人の物が落ちて、誰もそれを拾ってあげようとししない。さらに、日本のような高齢化している国で、多くのお年よりが電車や地下鉄に乗るが、座席を譲らない若者を目にするのは珍しくない。様々な例があげられる。日本人移民者たちは生活苦のためにブラジルへ移住した際、結束して生きなければならなかった。私は、だからブラジルの日本人と日系人は知らない人に対しても助け合い親切にすることが普通なのだと思う。

日本人は他人を尊重する。このイメージについても間違っていないと思っていた。日本は清潔な国だ。日本人はトイレや食堂のテーブルを使った後はきれいにする。ある日道端で、私は、子どもが手にしていたアイスクリームが落ちて、その子のお母さんがティッシュで床を拭き始めるのを見て驚いた。私は他人への尊重ゆえに出た行動だと思ったが、このテーマについて大学のゼミで日本人の学生と議論すると、日本人

が使った場所をきれいにするのは異なる理由からであると考えに至った。つまり日本人は、他人の目（批判）を気にして、使用したものを整理整頓するのだということである。ブラジルの日系人は他人の目をあまり気にしない。日本人はブラジルに移住したとき強い偏見ゆえに厳しい批判にさらされたが、それでも努力し今日一般的にはとてもよいイメージを持たれている。私は、ブラジルにおけるこうした状況によって、日本人と日系人は他人の批判を気にしないことを学んだのだと思う。



日本文化学科でのゼミ（日本文化学演習）

日本人とブラジル日系人との間のその他の大きな違いは若者の格好にある。日本の女性は寒くてもミニスカートををはき、濃い化粧をしている。時々男性も化粧をしているし、男女問わず茶髪にしたりパーマをかけたりにしている。電車に乗って、若い男女が鏡や電車のドアの前で髪の毛をいじっている姿を目にすることは珍しくない。日本の若者は自分の格好をととても気にする。ブラジル日系人も格好を気にするが、程度がかなり違う。茶髪やパーマをかけているブラジルの日系人はあまりいない。化粧をしている男性は全くいない。女性でも化粧をあまりしない。ブラジルは移民の国であり、

様々な民族的出自（エスニシティ）を抱えている。だからこそブラジルの国民は、生来の姿を変えたり目立とうと注意を引いたりするほどの必要性を感じない。

在日ブラジル人

ここで、日本に住んでいるブラジル人に関して抱いた感想を述べたいと思う。

留学のための奨学金の応募で希望する県を選ぶ際、私は、愛知県にはブラジル人が多いことを知って不快に感じた時期もある。ブラジル人との共生のためにわざわざ日本に来たくなかったからであり、これは既にブラジルでの私の日常であって、自分の日本語習得にも支障を来すと考えたからである。しかし日本に来ると、これは杞憂であった。愛知県には数多くのブラジル人がいることを知ってはいたが、なかなかブラジル人を目にすることはできない。後になって、日本にいるブラジル人は特定の場所に居住していることを知った。さらに日本のブラジル人留学生は、日本で働くブラジル人と同じ生活圏内にはいない。多くの留学生が日本で働く親戚を持つが、その現実とはまったく異なる。またブラジル人労働者たちがほとんど日本人とは関わりを持たないことも気になった。彼らはいわゆるコロニアと呼ばれる自分たちだけの共同体のなかで生活している。歴史的には現実とは異なるとはいえ、日本人移民者たちがブラジルに着いたときに形成したコロニアを思い起こさせる。

日本人との共生ということについて、ブラジルにおいてそうであったように、今のところ実質的な統合は見られない。ブラジ

ルにおいて日本人の1世は、ポルトガル語をあまり学ばず、ブラジル人もあまり関わろうとはしなかったが、2世以下の世代においては次第にブラジル人との共生が広がってきた。日本人がブラジルへ移住した当時、ブラジル人は日本についてはほとんど知らず、それは世界の反対側のアジアの中の“パイジニョ (paisinho)”¹に過ぎなかった。さらに日本が戦争に突入すると、ブラジルの日本人は共謀しているとの理由で弾圧された。くわえて日本の敗戦は、祖国に戻る夢を抱いていた日系社会のブラジル人との共生をさらに困難なものにした。戦前の移民者たちが痛感したこうした要因は、おそらく今日に住むブラジル人日系2世にとっては想像を絶するものだろうと思う。

今日、日本に住むブラジル人が異なる困難さを抱えているのは確かである。文化的に見れば、日本社会はブラジルのそれより閉鎖的である。ブラジル社会は世界中の移民から成り、この多文化的性格によって、宗教的、政治的、そして文化的等の意味でより開放的な社会になっている。程度は低い、偏見は存在する。一般にブラジルの国民は違いを受け入れることに慣れているのに対し、日本社会は反対に、道徳的、宗教的、かつ階層的な価値観に深く根付いた古い社会だ。ブラジルの学校では子供たちにとって、ご飯をお箸かフォークのどちらで食べるかは重要なことではない。日本の学校で子供たちは、食べにくくても“パウジーニョ (pauzinho)”²で食べなければならない。さらに日本の学校で、ブラジル人

の生徒がくつろぐ座り方はよく注意される。ブラジルでは普通起こらない、こうした例は枚挙に暇がない。



愛知ブラジル交流フェスタ

ブラジル人社会そのものに目を向けると、近代的な技術ゆえに、この社会も共生という意味では閉鎖的である。居住する地の言語を学ぼうともしないブラジル人は多い。日本にはこの意味での利便性が多いことが、かえって日本語を学ぶ必要性を感じさせない。例えば、様々な場所にポルトガル語での情報があり、有料テレビ放送でブラジルの番組すら見ることができる。このように、一言も日本語を発せないブラジル人でも、自らが居住する場所では難なく生活できる。それに、24時間以内に地球の反対側へ行ける飛行機も、ブラジルへの帰国の夢を実現できる利便性だ。ブラジルへの日本人移民者たちは日本への帰国には、船中で約2ヶ月間過ごさなければならなかったが、日本の第二次世界大戦での敗戦によって、帰国の夢は絶たれた。多くの場合実現できてはいないが、ブラジル人の早期の帰国の希望によって、子どもを日本の学校に入れなという事態を生み出すし、これによって、子どもたちは日本語を学ぶことができなく

¹ ポルトガル語で「小さい国」の意。

² 日本語が分からないブラジル人が「箸」の意味で用いる言葉で、もとは「棒切れ」の意味である。

なる。そして、日本が祖国ではないから日本を知る必要はなく、日本人との共生も必要ないという感情を引き起こす。

確かに問題はこれに尽きない。「隠れた偏見」がある。劣位の人種と見なされたブラジルへの最初の日本人移民者たちが耐えなければならなかったような、あるいは韓国人や中国人に対するような偏見ではない。しかし情痴犯罪が頻繁に起こる日本でのマスコミ報道——「日系ブラジル人、日本人の彼女を殺害」——でのこうした国籍への言及は、私には奇妙に感じられる。

それでも日本でブラジル人と日本人の共生促進とブラジル文化普及のための各種機関や政府の取組みはある。ブラジルは在日外国人出身者で3番目に多い国であるにもかかわらず、ブラジルのことを知らない日本人は多い。しかしこれは、ブラジルでそうであったように、時間の問題だろう。日本で働くブラジル人が日本の発展に貢献し、認められるようになるための時間である。

Impressões do Japão por uma Nikkei³

Cinthya Harumi Yabasse

Estudante Livre do Departamento de História e Cultura Japonesa

Estudo no Japão

Em abril do ano passado, cheguei ao Japão. Era a primeira vez que vinha a um país estrangeiro e o fato de ter sido o Japão esse país, para mim foi um privilégio muito grande, já que eu era brasileira, porém descendente de japoneses.

Eu vim para cá para estudar um ano, como estudante livre, às expensas da Província de Aichi. Meu tema de estudo foi escolhido no Brasil e desde lá já sabia o que gostaria de pesquisar: as causas da imigração japonesa para o Brasil. Sendo descendente de japoneses, não era estranho que eu tivesse escolhido esse tema, que sempre havia me intrigado com as perguntas: por que os japoneses imigraram para o Brasil? Por que escolheram o Brasil? Para tanto, era preciso que eu estudasse a história do Japão e refletisse sobre as condições daquela época.

Aqui não é o espaço oportuno para discorrer sobre toda a pesquisa, pois que muitos fatores influenciaram para a resposta a essas perguntas. A grosso modo, pensando na situação do Brasil e do Japão, não é difícil citar dois fatores primordiais que contribuíram para que o acordo imigratório/emigratório entre o Brasil e o Japão fossem firmados: a abolição da escravatura no Brasil, que fazia com que o país sofresse com a falta de mão-de-obra; e a modernização do Japão, que se encontrava na Era Meiji e estava passando por grandes mudanças. No caso do Japão, essas mudanças incluíam o confisco de terras, que gerava uma turbulência de revoltas e crises. Certamente, uma alternativa para abrandar o caos que estava ocorrendo no país era mandar uma parte de sua população para fora e assim minimizar os problemas. Do resultado de minha pesquisa, o que mais me surpreendeu foi a descoberta de que os japoneses emigrantes, em verdade, não escolheram o Brasil, no caso, para emigrar. A palavra “escolha” implica

³ Descendente de japoneses.

em ter duas ou mais opções, para que, de livre arbítrio, se aponte a melhor delas. O que, à época, não ocorreu, já que, aqueles que emigraram não tiveram opção. Por sua vez, o governo japonês, embora ciente das duras condições a que os emigrantes estavam sujeitos, estimulava a emigração com propagandas fantasiosas de que o Brasil fosse um paraíso. Penso em qual não foi o choque dos que no Brasil chegaram ao verem que as condições da “nova terra” eram tão duras quanto ao do país que deixavam. Soma-se ao fato, a discriminação que sofreram, além da dificuldade de comunicação, que em certo período, foi até mesmo proibida.

2008 foi o ano do Centenário da Imigração Japonesa para o Brasil, ano que muitos preferiram chamar de Intercâmbio Japão-Brasil. Penso que muito se tem a comemorar sim, pois que os japoneses e seus descendentes no Brasil, apesar de todas as agruras dos velhos tempos, se adaptaram muito bem a terra do arroz com feijão, do carnaval e do futebol. Porém, mais do que festas, espero que tenha sido um ano para se refletir e não esquecer o que passou.

Para mim, esse estudo, mais do que compreender sobre a história da emigração/imigração, me fez também entender um pouco da situação dos dois países hoje e certamente influenciou nas minhas impressões do Japão que descrevo em seguida.

A imagem dos japoneses

Antes de vir ao Japão, sendo eu descendente de japoneses e tendo me formado em Letras, na habilitação de japonês, eu me perguntava o que conhecia da cultura japonesa e se havia pontos em comum com a cultura nikkei.

Na habilitação de japonês da faculdade, estudei a língua, literatura e cultura japonesa. Porém, as aulas de cultura japonesa possuíam mais ênfase histórica do que cultural enquanto costumes. Apesar disso, sendo eu da terceira geração de descendentes de japoneses, penso que ainda possuía resquícios da cultura japonesa, já que essa era a cultura que havia sido transmitida a mim pelos meus avós. Por causa disso, certamente minhas impressões seriam diferentes de qualquer outro turista comum em viagem.

Para a sociedade nikkei brasileira, a imagem do nikkei e do japonês está fundida. Certamente, os japoneses do Japão e do Brasil possuem algo em comum, mas, será que a segunda geração, a terceira ou outras abaixo também são parecidas? Ainda, os japoneses do Brasil tiveram um histórico diferente dos japoneses do Japão. Portanto, certamente, diferenças há. Para os nikkeis, os japoneses são pessoas sérias, educadas, atenciosas e que respeitam os outros. Vim ao Japão, observei, e esta imagem, que

também eu possuía, foi um pouco alterada. Por quê?

Certamente, cada pessoa é de um jeito, mas, de uma forma geral, os japoneses são pessoas sérias. E nisso acho que não me enganei. Por exemplo, como os nikkeis, os japoneses quase não faltam às aulas. Quando eu era criança, raras vezes faltei. Mesmo se estivesse gripada, ia à escola. Assim também ocorria com meus amigos nikkeis. Essa era uma situação que se manteve até os anos da faculdade. Dentre os alunos, os alunos nikkeis eram conhecidos por transmitir a lição aos alunos faltosos. Mesmo os alunos desconhecidos vinham perguntar sobre a aula que tinham perdido. Mais do que somente perguntar sobre o conteúdo da matéria, os outros alunos tinham confiança nos alunos nikkeis. Na faculdade japonesa, tive a oportunidade de estudar com alunos japoneses e estrangeiros. Os alunos japoneses, de uma forma geral, faltavam somente quando estavam doentes ou por causa do serviço. Os alunos estrangeiros faltavam também porque estavam cansados ou por causa de viagens e outros assuntos pessoais.

Os japoneses são educados e atenciosos. Também nesta imagem não errei, a não ser por um pequeno ponto. Se você perguntar algo para um japonês, ele responderá atenciosamente. Mas, se uma pessoa desconhecida estiver precisando de ajuda, japoneses que ignorarão o fato, penso que são inúmeros. Explicando melhor, houve um dia em que um amigo estava em uma estação do metrô e um senhor idoso caiu da escada rolante. Na cabeça do senhor, abriu-se uma ferida, da qual saía sangue. As pessoas que passavam por ali eram muitas, mas ninguém parou para ajudar. As pessoas olhavam, mas continuavam andando. Por que ninguém ajudou? Ainda, também dentro do metrô, se cair algo de uma pessoa que está carregada de objetos, é comum ninguém pegar para devolver. Além disso, num país de idosos como o Japão, inúmeros idosos embarcam no trem ou no metrô, porém, é frequente ver jovens que não oferecerem seus assentos e continuam sentados. Vários exemplos poderiam ser citados aqui. Os japoneses, quando imigraram para o Brasil, por causa da vida dura, precisavam viver unidos. Por isso, penso que é comum os japoneses e nikkeis do Brasil ajudarem ou serem atenciosos mesmo com as pessoas desconhecidas.

Os japoneses são pessoas que respeitam os outros. Eu pensava que nessa imagem não estaria enganada. O Japão é um país muito asseado. Os japoneses, depois de utilizarem o banheiro ou a mesa do refeitório, deixam o lugar limpo. Um dia, vi uma criança derrubar sorvete e fiquei surpreendida por ver a mãe da criança limpar o chão com lenços de papel. Eu pensava que essa era uma atitude de respeito aos outros, mas, num seminário da faculdade, discuti sobre este tema com uns colegas da faculdade e concluí que é por um motivo diferente que eles deixam limpo os lugares. Por terem medo das críticas dos outros é que os japoneses arrumam o que desordenaram. Os nikkeis do

Brasil não se importam tanto com as críticas dos outros. Quando os japoneses imigraram para o Brasil, por causa do forte preconceito, receberam duras críticas, porém, sem se importar, se esforçaram e hoje possuem, em geral, uma boa imagem. Penso que, por causa dessa situação, no Brasil, eles aprenderam a não dar importância para as críticas dos outros.

Outra grande diferença entre japoneses e nikkeis brasileiros é a aparência dos jovens. As japonesas, mesmo no frio, se vestem com uma curta mini-saia, além de utilizar forte maquiagem. Por vezes, os rapazes também utilizam maquiagem e ambos pintam o cabelo e fazem permanente. Não é raro, ao embarcar no trem, ver moças e rapazes, em frente ao espelho ou na porta do trem, arrumando seu cabelo. Os jovens do Japão se importam muito com a aparência. Também os nikkeis brasileiros se importam com a aparência, mas o grau é bem diferente. Nikkeis brasileiros não pintam muito o cabelo e nem fazem permanente. Os rapazes não utilizam maquiagem e mesmo as moças não se maquam muito. O Brasil é um país de imigração e, portanto, possui etnias variadas. Dessa forma, penso que seu povo não sente muita necessidade de mudar a aparência natural ou de chamar a atenção para se diferenciar.

Os brasileiros no Japão

Agora, falarei um pouco sobre as impressões que tive dos brasileiros que estão morando no Japão.

Antes de escolher para qual província iria me inscrever para concorrer à bolsa de estudos no Japão, o fato de saber que Aichi possuía muitos brasileiros, me desagradou por um momento. Não gostaria de vir para o Japão para conviver com brasileiros, já que isso eu já vivenciava no Brasil e dificultaria meu aprendizado do japonês. Porém, qual não foi minha surpresa quando cheguei aqui e me custava a ver brasileiros, mesmo sabendo que Aichi era a morada de muitos deles. O que vim a saber mais tarde é que os brasileiros que vivem no Japão moram e convivem em lugares determinados. E, mais do que isso, os estudantes brasileiros no Japão não convivem com os brasileiros que trabalham no Japão. São realidades diferentes, apesar de muitos estudantes possuírem parentes que estão no Japão trabalhando. O que também pude notar é que esses brasileiros muitas vezes não se relacionam com os japoneses. Eles vivem nas chamadas colônias. Embora sejam realidades historicamente diferentes, lembram muito as colônias formadas pelos imigrantes japoneses quando na chegada ao Brasil.

Em termos de convivência com os japoneses, da mesma forma que ocorreu no Brasil, por hora, é difícil ver uma integração real. Mesmo no Brasil, a primeira geração de

japoneses não aprendeu muito português e também não se misturava muito com os brasileiros, porém, da segunda geração em diante, essa convivência foi gradativamente aumentando. Na época da imigração para o Brasil, os brasileiros pouco sabiam sobre o Japão, que era um “paisinho” no meio da Ásia e do outro lado do mundo. Soma-se a isso o fato do Japão ter entrado na guerra e os japoneses do Brasil terem sido reprimidos, sob o pretexto de estarem se mancomunando. Além disso, a perda do Japão na guerra só veio a agravar ainda mais a dificuldade de convivência de uma comunidade que sonhava em voltar para sua terra natal. Esses fatores duramente sentidos pelos imigrantes japoneses do pré-guerra talvez sejam inimagináveis para os brasileiros que hoje vivem no Japão e que se encontram ainda na segunda geração.

Certamente, a dificuldade encontrada hoje pelos brasileiros no Japão são outras. A sociedade japonesa é uma sociedade culturalmente mais fechada do que a sociedade brasileira. A sociedade brasileira é uma sociedade formada por imigrantes de várias partes do mundo e essa multiculturalidade faz dela uma sociedade pouca severa, em termos religiosos, políticos, culturais, etc. Embora preconceitos existam em menor grau, de uma forma geral, o povo brasileiro costuma aceitar as diferenças, ao contrário da sociedade japonesa, que é uma sociedade milenar fortemente arraigada a valores morais, religiosos e hierárquicos. No Brasil, pouco importa se uma criança come de *ohashi*⁴ ou de garfo na escola. No Japão, ela é obrigada a comer de *pauzinhos* mesmo que tenha dificuldade para isso. Além disso, o modo folgado com que os alunos brasileiros se sentam na escola, geralmente é mal visto e repreendido, quando isso não costuma acontecer no Brasil. Vários exemplos poderiam ser dados aqui, mas não cabe ser exaustiva.

Olhando um pouco para a própria comunidade brasileira, pelos facilitadores tecnológicos e modernos, ela também se fecha em sua convivência. Muitos brasileiros não se importam em estudar a língua da terra onde estão morando. O Japão apresenta inúmeras facilidades nesse sentido que faz com que não seja necessário o aprendizado do japonês. Por exemplo, em vários lugares, há informações em português e até mesmo é possível assistir a programas brasileiros, através do sistema de TV paga. Dessa forma, mesmo que um brasileiro não saiba falar uma palavra de japonês, nos locais em que os brasileiros no Japão estão vivendo, ele não encontra nenhuma dificuldade em viver. Além disso, a facilidade do avião, que possibilita que se vá até o outro lado do mundo em apenas 24 horas é outro facilitador que faz com que o sonho de voltar ao Brasil seja possível. Os imigrantes japoneses do Brasil, para voltar ao Japão, precisavam passar por árduos 2 meses aproximados dentro de um navio, além do sonho de retorno ter sido

⁴ Palitos de madeira utilizados como talher.

abandonado quando o Japão perdeu a Segunda Guerra Mundial. A esperança de um retorno próximo pelos brasileiros, que muitas vezes não acontece, acarreta vários fatores como não colocar os filhos em escolas japonesas, o que muitas vezes impossibilita-os de aprender o idioma; e o sentimento de que o Japão não é sua terra e que, por isso, não há necessidade de conhecer o país e tão pouco conviver com os japoneses.

Certamente, os problemas não param por aqui. O preconceito dissimulado existe. Não o preconceito como o enfrentado pelos primeiros imigrantes japoneses no Brasil, que eram considerados de uma raça inferior, ou mesmo como o preconceito contra os coreanos ou chineses, mas quando a imprensa japonesa noticia: “Nikkei brasileiro mata namorada japonesa” é de se estranhar o fato da nacionalidade ser colocada em destaque num país em que crimes passionais são frequentes.

Ainda assim não se pode ignorar o fato de haver esforços por parte de organizações e do governo japonês em estimular o convívio de brasileiros e japoneses no Japão e de divulgar a cultura brasileira aqui. Muitos japoneses ainda desconhecem o Brasil, apesar dos brasileiros formarem o terceiro maior grupo de estrangeiros no Japão, mas talvez isso seja uma questão de tempo, como ocorreu no Brasil. Tempo para os brasileiros que trabalham no Japão serem reconhecidos e aceitos pelas contribuições positivas para o crescimento do país.